

# 神奈川 私学保連

# NEWS



## 成功の裏に失敗がある

神奈川県私学保護者会連合会 会長 佐藤 昭

(横浜創英中学校高等学校後援会 後援会会長)

車社会と言われる現代ですが最近、自動車の自動化についてのニュースが特に目にとまります。私自身、仕事上で自動車を利用する機会が多くあります。その自動車が発明されたのは1769年、フランスで蒸気を動力とする自動車でした。日本はまだ江戸時代で、ヨーロッパに比べると日本の自動車の生産はその160年後の1930年代となります。日本の技術力も高くなり、私たちの生活にとっても身近となっている自動車ですが、最近リコールという言葉を目にする機会があります。リコールは、設計・製造過程に問題があったために、自動車メーカーが回収・修理を行い、事故・トラブルを未然に防止する制度です。国産車に限って見ると、平成元年は100万台の自動車

が対象でしたが、昨年は1800万台とその数は増えていきます。所謂、ものづくりの失敗となります。インドの自動車会社タタの「ナノ」という無駄を省いた、自動車が販売されたのが2009年でした。荷物は車内からのみ出し入れ、エアバッグもパワステも無しで、当時インドが世界で最も低価格の車を販売すると話

題になりました。アメリカドルで\$1,800ですから、日本でいえば原付(原動機付自転車)の値段と変わりません。実際は赤字続き、営業的には失敗となりました。航空機の失敗の例として「コンコルドの誤り」があります。単に速度の速いもの、性能の高いものはコストも高く採算性が取れませんでした。

こういった失敗をデータベースにした畑村洋太郎さんは、専門は失敗学であり、自ら失敗学会を立ち上げています。畑村さんは「成功の影には失敗があり、これを繰り返しながらひとつひとつの経験を知識として自分のものにしていく。」と話しています。本田技研創業者の本田宗一郎さんは「私のやった仕事で本当に成功したのは、全体のわずか1%にすぎない。99%は失敗の連続であった。」「失敗することを恐れるよりも、何もしないことを恐れる。」と説いています。

スポーツ界ではこんなこともあります。「9000回以上シュートを外し、300試合の勝負に敗れ、勝敗を決める最後のシュートを任されて26回も外した。人生で何度も失敗した。それが成功の理由

だ。」これはバスケットボールのマイケル・ジョーダン選手のことばです。

現代の日本社会には、失敗を恐れ、恥じ、隠そうとする文化があると言われています。失敗を前向きに見つめ、謙虚に学ぶという事はとても大切に思います。「失敗は成功の母」という言葉もあります。成功につながるためにポジティブに原因や背景を見つめることが大事です。

そして畑村さんは「失敗は伝わりません。」「失敗をして得ることもあるようです。」「失敗はしてみることも次へのステップです。」とも話しています。

何事も信念を持ちながら行ったことを振り返って見ると、その事が成功であったかまた正しくなかったかの結論は、人によってあると思います。

勿論、失敗はしない方が良いですが、もし失敗したらその場合は成功につながることに前向きに捉えましょう。

◆  
11月9日(水) パシフィコ横浜会議センターで「神奈川県私立中学校・高等学校振興大会」が開催されます。私学に通う子どもたちの保護者にとって、公立と私学の学費負担の格差を強く発信する大切な大会と位置付けています。多くの保護者の皆様の参加を期待します。



平成28年度

# 定時総会の開催

## ～ 神奈川私学の発展のために ～

今年度の定時総会は5月20日（金）に崎陽軒本店（横浜駅東口）で開催されました。神奈川私学（小・中・高）の保護者会連合会の加盟校88校中、出席校27校、委任状提出校41校で総会は成立いたしました。出席者は、各校から120名、現役員12名、来賓2名となりました。

まず、保護者会の佐藤昭会長が挨拶し、次に来賓として、私立中学高等学校協会の工藤誠一理事長（聖光学院理事長・校長）からご挨拶をいただきました。議長は鴨下博厚副会長で議事に入り、平成27年度事業・決算報告と平成28年度事業計画・予算が提案され、すべて原案通り承認されました。つぎに、吉成みち子役員推薦委員長からは5号議案の役員改選について提案があり、14名の役員（理事）が承認されました。今年度は理事に赤松育子理事（鎌倉学園中学校・高等学校PTA顧問）、木村美佐理事（鎌倉女学院中学校・高等学校 家庭会顧問）の2名が就任されました。理事の皆様には公私とにご多用の中、役員をお引き受けくださり、ありがとうございました。神奈川私学保護者会連合会の加盟校、会員の皆様には、これからも本連合会の諸事業のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

来賓あいさつ



## ～ 私学の連携から新たな創造へ ～

一般財団法人 神奈川県私立中学校高等学校協会

理事長 工藤 誠一

（聖光学院中学校高等学校 理事長・校長）

日頃より神奈川県の私立学校にお子様を通学させていただいているとともに、神奈川県私学協会の運営にも保護者として絶大なご支援とご協力を賜っておりますことを心より御礼申し上げます。

2013年より神奈川私学振興大会を、私学協会として保護者連合会が一体となって開催してまいりました。おかげさまで昨年の振興大会も、パシフィコ横浜の会議センターにおいて、一千名を超える満員の皆様にご参加いただき、私学の振興を高らかに主張することができました。

本年も黒岩祐治神奈川県知事をはじめとして、本県選出の衆参両議員、神奈川県議会議員の皆様、そして行政の方々をお招きして、11月9日（水）にパシフィコ横浜会議センターにて実施することが決まっております。ぜひとも多数の保護者の皆様に、本年もご参集賜りますようお願い申し上げます。

当面の私どもの目標は、県内私学に通う生徒一人当たりの経常費補助額として、国が示す財政措置額を何とか確保したいということにあります。財政措置額というのは、地方交付税の算出の際に私学補助として算定されるものです。この金額は生徒一人当たり高校生が約32万円、中学生は約31万円です。ところが神奈川県の場合には、高校生が約30万、中学生にいたっては約22万円というありさまで、参考までにお隣の東京都は高校生約38万円、中学生36万円となっております。多摩川を一步渡っただけでこのような格差があるというのを皆様はご存じでしょうか。

私学に対してなぜ税金を使って補助をするのか。それは教育の種類の選択権を国民に保障するためにあるのです。

歴史的にみると、フランス革命以降主張され、その後ヨーロッパ諸国の憲法で保障され、『世界人権宣言』でも確認された教育の種類の選択権とは、国・公立学校以外の教育の種類、つまり私学の選択権でした。『世界人権宣言』第26条の3には、「親は、子に与える教育の種類を選択する優先的権利を有する。」と明記されています。

私学の独自性と深く関わる教育の種類の選択権は、国家の学校教育独占に対するアンチテーゼとしてフランス革命期に生まれたものです。国家による教育とは異なる自由な教育の選択権、つまり私学教育の選択権として出てきたのです。とりわけ親の宗教教育権や親の宗教教育の自由に対応した宗教系私学を選ぶ自由をその内容としていたのです。

社会主義国家には私学は存在しません。ナチスも私学を解体しましたし、北朝鮮にも私学は存在しないのです。

私学は、自由と社会的多様性の原理の上に存立しています。一方の公立学校は、平等と社会的統合の原理の上に成立するだけなのです。子どもが私学で教育を受ける権利、宗教教育を受ける権利、親の教育の自由に伴う宗教教育権、このような自由権の基本権および精神的自由権に対応して私学は発達してきました。これに対して公立学校は、国民の社会権の基本権および生存権の基本権に対応して制度化され、今日に至っています。

このように学校は、子どもや親が有する教育の種類に

# 新役員紹介

新理事 木村美佐

(鎌倉女学院中学校・高等学校家庭会顧問)



鎌倉女学院は1904年に創立され、今年112周年を迎えました。創立者の田辺新之助先生は「真摯沈着」「尚綱(しょうけい)」を校訓として掲げ、「堅実な女子を育成し、日新の新知识を授けたい」との抱負をもって女子教育に全力を尽くされました。

現在、本学院では伝統をふまえた上で、古都鎌倉の中央に位置するという恵まれた環境を生かし、中学では「鎌倉学」を、高校では「国際・環境学」を特徴とした独自のプログラムを展開しています。『鎌倉の町全体が私たちのキャンパス』をスローガンに日本文化理解・国際理解・情報・環境の4分野について総合的に体験的に学び、鎌倉周辺の施設や地域の鎌女応援団のご協力により実現している素晴らしいプログラムです。

「心身ともに健康で、国際性豊かな人間教育」、「知的で洗練された女性エリート育成」を教育目標に、先生方のきめ細やかな指導のもと、子どもたちは勉強や部活動、また体育祭、合唱コンクール等の行事にも全力で取り組んでいます。

鎌倉女学院の保護者の会である「家庭会」は、先生方のご指導・ご協力のもと、家庭会会員の皆様の学級・学年を越えた親睦・交流を図る様々な活動を行っております。例えば、六年間参加すると鎌倉の主な名所・旧跡を回る事ができる「鎌倉散策」、バスを利用しての「社会見学」、著名な講師をお招きしての「講演会」等を行っております。また、各行事に参加いただいた会員の皆様の感想や各分野でご活躍の保護者の寄稿文等を掲載した「家庭会だより」を年二回発行し、家庭会の活動をお知らせしております。

このたび、私学保護者会連合会の理事を仰せつかりました。微力ではありますが、皆様方のご指導のもと、私学の更なる発展と子供たちの未来のためにお手伝いできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

新理事 赤松育子

(鎌倉学園中学校・高等学校PTA顧問)



緑豊かな古都鎌倉にありまます鎌倉学園は、明治18年(1885年)鎌倉五山の第一利建長寺が宗派の師弟教育のために設立した「宗学林」を前身とする中高一貫の男子校です。「質実剛健」の武士の魂と「自主自律」の禅の精神を現代に受け継ぎ、心身ともに大きく成長する思春期の子ども達を、ひとりの人間として温かく見守り育ててくださる『文武両道』の学園です。

校訓は『礼義廉恥』(「礼」とは「節度を守ること」、「義」とは「自分を実際以上に見せびらかさないこと」、「廉」とは「自分の過ちを隠さないこと」、「恥」とは「他人の悪事に引きずられないこと」)、授業には座禅もごさいます。我が家のふたりの息子たちも、試練に立ち向かう際にはじつと目を閉じ、慌てず騒がず精神を落ち着かせることができると言っていました。長男次男あわせて9年間お世話になっていただきましたことに、心から感謝いたしております。

このたびご縁あつて私学保護者会連合会の理事を仰せつかりました。皆さまのご指導のもと、私学の更なる発展のために微力ながらもお手伝いをさせていただきますことを有難く存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



## ●平成28年度 神奈川県私学保護者会連合会 役員

役職名	氏名	所属父母会(PTA)・役職名
会長	佐藤 昭	横浜創英中学高等学校後援会 後援会会長
副会長	深沼 昭彦	横浜清風高等学校PTA 常任顧問
	原 大蔵	聖光学院中学高等学校聖光会 理事
理事	鴨下 博厚	洗足学園中学高等学校 洗足会会長
	吉成 みち子	横須賀学院中学高等学校 教育賛助会会長
	深谷 祥子	藤嶺学園藤沢中学高等学校PTA 担当役員
	赤松 育子	鎌倉学園中学校・高等学校PTA 顧問
会計理事	木村 美佐	鎌倉女学院中学校・高等学校 家庭会顧問
	浅見 昌宏	立花学園高等学校PTA 参与
監事	市川 千恵	武相中学高等学校PTA後援会 相談役
	金子 晃久	高木学園女子高等学校PTA 顧問
顧問	前迫 由香	横浜富士見丘学園中等教育学校PTA 副会長
	市川 昌廣	横浜学園高等学校後援会 後援会会長
	玉園 篤敏	平塚学園高等学校父母の会 会長

関する選択権に対応しています。公立学校が教育における一律な定番を保障するのに対して、私学は個性を活かしたアラカルトな教育を保障することを旨としているのです。

わが国が輝きを失うことなく、財をなし国際社会の平和と発展に寄与していくためには、有為な人材の育成は欠くことのできない要素と言えます。まさにこの『人材育成ミッション』を担うこそが私ども神奈川私学に課せられた使命であると自覚しております。本日お集まりの皆様、どうぞ力を合わせて、神奈川私学に通う若者たちに期待し、未来の社会を託すことはありませんか。

講演内容

●平成28年5月20日

●場所 崎陽軒本店（4階）

## 日本における奇術の歴史とマジックショー

講演者 森山 尚平（もりやま しょうへい）

北見 翼（きたみ つばさ）

Tokyo Tomo（とうきょうとも）



江戸時代の手品文化とはどういうものなのか、皆様にちょっとだけその片鱗を紹介します。江戸時代が一番初めて出てくるマジシャンとしては都右近または都傳内です。最初は京都の四条河原で活動して後に江戸に移ってきますが、当時は歌舞伎もまだ黎明期ということもありまして、都傳内は手品師としてのみならず歌舞伎の狂言作家としても活動していた人物です。都傳内が手品を演じている様子ですけれど、これは4代将軍徳川家綱のために催された饗宴です。ですからこの時代には將軍の宴の場に手品師が呼ばれて演じていたということがわかります。

手品のなかで「緒小桶（おごけ）の曲」という演目があります。大きな筒があり、その筒の中が空であることを改めた後に、その中からいろいろな品物を取り出すといった芸です。江戸にあった芝居の町は大火で焼失してしまいますが、手品師たちは、活動場所を移します。神社、寺院の境内で祭礼の時に見世物小屋ができ、または大道で芸をやる人たちがいて、その中に手品師もまじって活動していきます。当時の手品師の一人として、東芥子之介（あずま けしのすけ）という人物を紹介します。

芥子之介は辻放下として大道芸で手品を演じた人物ですが、豆、徳利、鞆などを手玉に取って投げ、芸の最後に鎌を投げあげて空中で豆を切るという離れ業を演じ、最後にそれらを箱に入れて泥鰌や鳩に変化させる芸をしました。さらに種らしきものをまいたかと思うと花やまくわ瓜を出現させるなどの芸を演じたときられています。

天狗通などのタイトルの手品本が出版され素人が読んで演じることが普及しました。

周辺の芸能に目を向けてみますと歌舞伎や竹田からくり、人形浄瑠璃など、手品以外にも仕掛けを使って不思議な現象を作り出すという芸能娯楽が盛んになったということが江戸時代の特徴です。元禄時代のカラクリ全盛期に、この仕掛けが一体どうなっているのか、その内側を知りたいと思うようになります。こういった仕掛けの暴露本、タネ明かし本が次々に出版されていきます。代表的なものとして「からくり図彙（ずい）」は時計やからくり人形の仕組みを解説したもので、これを参考にして実際に何人も人が人形を復元したといわれています。

歌舞伎役者の尾上松助は4代目鶴屋南北と組んで文化10年に怪談ものを創始します。優れた仕掛けとシナリオによってそれまで以上に不思議な芝居を行いました。また彼の養子の尾上栄三郎は親の芸を継承して、後に3代目菊五郎、代表作東海

道四谷怪談では演じるたびに仕掛けを増やしていきました。みやこや都楽という人が、当時舶来品であった幻灯を写し絵として興業化したわけですね。スクリーンに写す映像と語り、鳴り物の総合パフォーマンスによって物語の形式を獲得した日本独自の映像メディアです。俗に映画の元祖ともよばれるものです。

彼と同門の初代林家正蔵も化け物語を売りにした落語家で、話のオチに作り物の幽霊が舞台から出てくる。彼に協力した人形師の泉目吉（いずみめきち）は芝居で使う張りぼてなどの人形を制作していた人物ですが、化物ローソクを商品化しました。化物ローソクはいまのマジックグッズのようなもので、それを買えば誰でも手品ができるというもので、当時ヒットしたそうです。

江戸時代に演じられていた手品の特徴は、柳川一蝶齋に代表されるように先ほどご覧いただいた紙を蝶に見立てる手品とか、煙を魂に見立てたり、煙を龍に見立てたりする手品がありました。

放下箏（ほうかせん）という伝授本の序文に、これまでは人が幽霊に驚かされた時代であったけれど、これからは人が幽霊に驚かされるのではなくて、人こそ人為的に怪奇現象を起こさせて、他を驚かすべき時代であるという風に書かれているわけです。こうした不思議なもの

を不思議と受け止めるだけでなく、そのやり方を解明して実際に自分で不思議な現象を演じてみせる手品という遊び、これを通して江戸時代の人たちは合理的な精神を養っていったということがわかるわけです。江戸時代の手品について解説させていただきます。

## 歴史と伝統ある日本の奇術

理事 深谷祥子

（藤嶺学園藤沢中学校高等学校PTA 担当役員）



五月晴れの気持ちの良い日となった5月20日、28年度定時総会は無事終了し、珈琲タイム後、特別講演会「日本における奇術の歴史とマジックショー」がおこなわれました。

一昨年、昨年のコンサートから今年は趣向をかえて、来会していない家族の皆様も楽しめる企画としてマジックショーを考えました。マジックを見て楽しむとともに、その歴史や文化的背景を学び、さらに簡単なマジックを習得し、家庭の団欒のひとときに家族で楽しめることのできるショーをめざしました。

珈琲タイム終了後、華やかな音楽とともにマジシャンの登場です。

スーツ姿のTokyoTomo氏の指先からは、リズムにのって軽やかに次々とカラフルなボールが出てきます。そして胸のポケットからはハンカチーフがでてきて宙を舞い花に変わります。スマートなパフォーマンスが繰りひろげられ歓声のため息とかが交錯するうちに終了です。

続いて、舞台のしつらえが変わり唐傘にはかま姿の若者、北見翼氏による和妻（日本手品）の講演です。目の前で紙をひねって作られた蝶が扇子であおられ、ひらひら飛びように舞い一羽が二羽の戯れとなり、最後はたくさん蝶が舞う様子を扇子のみで描く胡蝶の舞。

空の木箱というより木枠から次々布や花がでてきて、関心して見るばかりです。和と洋のマジックパフォーマンスの次は、TokyoTomo氏による、マジックの歴史と成り立ち江戸の手品文化についての講演です。パワーポイントを使用した解説は、興味深く、日本のマジックは歴史と伝統に裏打ちされた文化的価値の高いものであるということがわかりました。

最後は、森山尚平氏によるトランプカードを使っているマジック教室です。トランプをつかっているマジック、種も仕掛けもあるといわれてもさっぱりわかりません。

単純ともいえる種明かしを知って会場全体が笑顔と歓声に包まれました。あっという間の1時間半で、楽しいひとときとなり、トランプカードのお土産をいただき笑顔での散会となりました。

参加された皆様は、帰宅後マジックを披露されましたでしょうか？

家族の語りだの楽しい話題の一端になれば幸いに存じます。

## 私立学校への「経常費助成補助」の増額を求めて

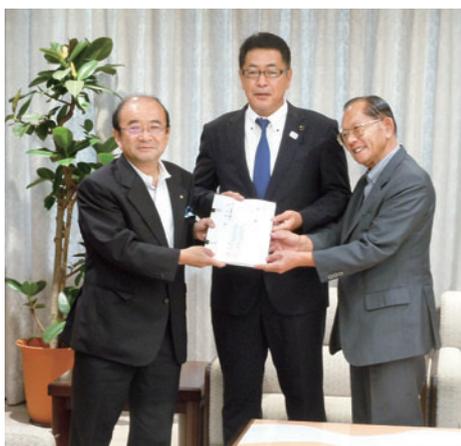
森正明県議会議長へ請願・署名を提出

6月8日 神奈川県庁新庁舎

私立中学高等学校協会役員4名と私学保護者会連合会の役員6名が県庁を訪問し、私立学校の保護者負担の軽減と教育条件の維持向上に向けた、私学への「経常費助成補助」の増額等の要望を県議会議長に提出しました。

6月8日に全加盟校にお願いした「経常費助成補助」に関する署名は、全校の学校・法人・保護者代表から、249名分が集まりました。県庁新庁舎の会議室において、中高協会の工藤誠一理事長と保護者会連合会の佐藤昭会長が代表して、森正明（もり まさあき）県議会議長に提出しました。

平成28年度の「私学振興費」の総額は、昨年度に比べ減額となっています。その内容は、「私立高等学校等生徒学費補助」は制度変更にもない負担が減額されたものの「私立高等学校等就学支援事業費」と合わせた予算額は減額となつています。なかでも、「私立学校生徒学費緊急支援事業費」の減額や最も大事な私学経営の柱となる「経常費補助」は対前年度0.7%の微増となっており、私学への県費助成の増額を強く要望します。



神奈川県私立高等学校等への生徒一人あたりの「経常費助成」は、高等学校、中学校、中等教育学校ともに国の財政措置である基準単価を大幅に割り込み、全国都道府県別に比較すると中学校が全国でワースト1位、高等学校がワースト2位という低い水準です。神奈川県に学ぶ生徒たちが、保護者の経済状況に左右されず、より自由に学校選択ができる教育環境をつくるために、私学への助成は極めて重要なことと考えます。

これからも「経常費助成補助」のさらなる増額を求める取組について、全加盟校のご協力をお願いします。

## 平成28年度日本私学保護者会 連合会総会・研修会

副会長 深 沼 昭 彦

(横浜清風高等学校PTA 常任顧問)

今回、日私学保護総会に出席して参りました。開催地は愛知県名古屋市中区にて行われた。総会では、ご臨席賜りましたご来賓の、馳浩文部科学大臣をはじめ、大村秀章愛知県知事多数の方々よりご祝辞をいただき、日本私立中学高等学校連合会吉田晋会長より来賓挨拶のお話がありました。議事などが進み最後に総会決議が読み上げられ満場一致で採決されました。

私が感じたことは、全国、各地区、各都道府県単位の総会でも声を上げる事の重要性をお伝えしたいと考えます。各学校から始まり全国まで一丸となり声を上げていくその声を国へ伝えるのがこの日私学保護でありその一つの方法が総会でもある。少しずつではありますがその声が届いていると今回出席して感じました。今後も、声を上げていきましよう。日私学保護総会の報告と感想です。



## いじめ暴力行為問題対策協議会

副会長 原 大 蔵

(聖光学院中学校高等学校 後援会理事)

8月25日いじめ・暴力対策協議会の講義があった。今回の講師は西野博之さん。不登校や引きこもり、そして障害をもった子供たちの施設を、行政と協力しながらも複数運営する、まさに現場でこれらの問題に立ち向かっている人だ。講義は1時間半にわたった。その施設の子供の自殺に関する話をされたとき、西野さんは時に涙を浮かべていた。彼の責任感の強さを肌で感じ、圧倒された。彼の枯れることなく湧き出る熱い思いや考えが、普段生ぬるい生活をしている私を圧倒するに充分すぎる90分であった。しかし彼にとつては、その短い時間に溢れる思いをどう収めていくのか苦心していたように感じた。その質も量も山盛りの講義の中で、特に私たち私学の保護者にとつて大事なのではと思う一点だけ触れていきたい。

現在、日本の中学生のうち約35人に一人が不登校らしい。結構な数だ。この割合は社会や学校にもあるだろうが、家庭における原因は主にふたつあり、貧困によるネグレクトと過干渉だそう。私たちにとつてはこのうちの過干渉が一番気になるところだ。

子供の不登校や引きこもりについて語るときに大切なキーワードが自己肯定感だそう。私たちが親は、子供に少しでも「良く」なつてもらいたいと思つて努力する。このこと自体は悪いことではないが、これをそのまま子供にぶつけてしまうのが危険なのだ。そもそも、この「良い」の価値観は親の不安から出てくることが多い。自分が子供の将来に不安を感じたくないがために、子供が安全に生きられるように先回りして、大人の社会を上手く生き抜くための力や方便を体得させようとする。これが「良い」の正体だという。

これらを知らないうちに、いやそれ以上にこれこそが正しいことと、確信をもって子供に押し付けてしまう。私もそうしていた部分があるような気がするし、皆さんも少なからず心当たりがあるのではないだろうか。具体的に言えばその「良い」は学歴だったり、成績だったり、挨拶ができることだったり、時には徒競争の上位をとる

ことだったりもする。

この「良い」とは親が思っているだけであり、子供には実感を持つて理解できるわけがない。なぜなら、子供はまだ自分の価値観がほとんど確立しておらず、何が良くて何がよくないのかの判断もままならないからだ。その代わりに子供は、ただ親の期待に応えようと、親に認めてもらおうと必死に頑張つてしまうのだ。

「良い」子になろうとすれば、客観的に人より上に行かなければ得られないことが多く、比較の世界である以上必ずそれを獲得できない子供は存在する。そんな親思いの普通の子にこの価値観に込めさせようとするれば、その子供は、自己肯定感を失うのは必定だ。自分の価値観が脆弱な子供にとつて親の価値観は強大だ。その力はいとも簡単に子供の自己肯定感を吹き飛ばしてしまう。自己肯定感を失った自分の存在自体を無意味なものと思ひ、自分を守るために自分を取り巻く社会を拒絶し、引きこもりや不登校へとつながっていく。

確かに現実の社会は厳しく、勝ち抜かなければ得られないものも多い。敗北した時は当然その敗北感と引き換えに自己肯定感を失ひ、子供は社会から否定されたと感じる。この時、親こそが子供をそのまま丸ごと受け入れてあげなければならぬのだ。そのためには、親は日常において大切な子供の存在自体を肯定していなければならぬ。付焼刃の慰めは、その子をさらにひどく傷つけてしまう。子供にとつて私たち親は、誰よりも彼らの存在自体を常に肯定してあげべき存在なのだ。

西野氏は、彼の行動と責任感を伴った、それゆえ強い



説得力のある言葉で、以上のようなメッセージを私に送ってくれた。そして最後に、西野氏は一番大事な言葉「生きていてくれてありがとう。」を教えてくれた。私たちは子供に対し贅沢過ぎになっていないだろうか。生きていてだけで「良い」とすることも大事なのだ。だらしない愚息も随分と愛おしく感じられた講義だった。

平成28年度

平成28年8月26日(金)

13時30分～16時

場所 横浜ロイヤルパークホテル70階

レインボー

# 日私学保連関東地区代表者会・研修会

## 関東地区代表者会・研修会を終えて

副会長 嶋下博厚

(洗足学園中学高等学校 洗足会会長)



今年度の関東地区私学保護者会連合会・連絡協議会は、我が神奈川県が開催地となりました。まだまだ残暑の厳しい8月26日(金)に、横浜ロイヤルパークホテルで開催いたしました。この

連絡協議会には、東京都を除く関東地区6県の私学保護者会連合会の役員等が参加いたします。各県役員にご来賓の方々を加え、約90名の方々がご参加くださいました。

代表者会では、各県連合会の活動内容や取り組みなどを報告していただきました。各県により私学を取り巻く状況は異なりますが、それぞれの取り組みを共有することが、今後の活動へのヒントになります。非常に充実した報告資料を用意された県もあり、大変意義のある会となりました。

代表者会に引き続き行った研修会は、横浜高等学校硬式野球部・終身名誉監督の渡辺元智先生をお招きし、「子供たちの将来を考える」～50 高校野球を振り返る」という演題で、講演をしていただきました。横浜高校硬式野球部を神奈川県下有数の強豪校に育て上げた渡辺先生の指導方針は、野球を通じて生徒それぞれの個性を伸ばす、生徒に全力で向き合うということであり、様々なエピソードのご披露を含め、指導者生活50年という歴史の重みを感じる内容でした。

今回の開催は、開催県として他県からの参加者を十分に「おもてなし」したいとの思いがあり、役員が無知恵を絞って費用を掛けない工夫をいたしました。会場のロケーションに助けられた面もありますが、ご参加くださった方々に神奈川県らしさを味わっていただけたものと思っております。

関東地区私立保護者会連合会代表者会・研修会が、横浜ロイヤルパークホテルで開催されました。代表者会では来賓として工藤誠一(神奈川県中高協合理事長)、秋山昌弘(県民局次世代育成部私学振興課長)にご挨拶をいただきました。

代表者会には、根本孝(関東地区私学保護者会連合会長)議長の前で、協議題及び活動報告が各県担当から報告されました。2号議案である聴取事項及び情報交換事項はありませんでした。続いて平成29年度開催県の小林哲也(埼玉県私立小学校中学校高等学校保護者連合会会長)から次年度に向けての挨拶で代表者会を終えました。

研修会は、横浜高等学校硬式野球部終身名誉監督渡辺元智先生を迎え、「子どもたちの将来を考える」副題として「50 高校野球を振り返る」という演題で、ご講演をいただきました。

渡辺監督の講演「私はプロ野球選手を60何人か育てています。その子達に野球にはうんと金をかけなさい。生活は自分の年齢と同じ、周りと同じ遊びをしない。体が資本だから車はいいだらう。大げさに言えば1000万の車でもいい。ぶつかっても強いし、そういう金はいい。しかし、年齢を超えた遊びはしてはいけない。ペイスターズの筒香選手は本当に日本のトップバッターに成長しつつあります。彼は12月ドミニカに行きました。なぜ行ったと思いますか?他流



一流の考えをもつ。私が若いとき挫折したときにお坊さんが言いました。「一流になるには一流を知りなさい。一流の人に接しなさい。そのかわり一流にかぶれるな」もう一人の方は港の親父さんですが「異業種の人と会っているんなら勉強しなさい。野球ばかり勉強しているんじゃない。いろんな人と会っているんなら勉強しなさい。このお二人によって私は変わりました。自分でも失敗から学んだことがあります。」

保護者の皆様に向けて「いいお子さんが成長できるように、色々問題にぶつかるとはしょうが、ぶつかるのが当たり前です。最終的に人生の勝利者になればいい。若いときには生きていくからこそ間違いもある、それが決定的な間違いにならないように見守ってやる。それが親だと思えます。親があまり前に出すぎず静かに見守ることも大事だと思います。冒頭に申しましたように私にとってすべてが有意義な50年間はありました。けれども、皆様方に少しでも参考になったことがあればということに締めくくりにさせていただきます。ご静聴ありがとうございます。ご静聴ありがとうございました。」と終わりを結んでいました。

保護者の願いを届けましょう！

神奈川県私立中学校・高等学校

振興大会

11月9日(水) 14時30分～16時 パシフィコ横浜 会議センター  
メインホール

平成28年度も「神奈川県私立中学校・高等学校振興大会」を、私立中学高等学校協会・私学保護者会連合会主催、私学保護者会交流会の共催で開催します。

開催の趣旨は、神奈川県私立中学校・高等学校のより一層の振興を期して「神奈川県私立学校の決意と願い、及び努力を神奈川県民の皆さまにアピールする」ことを目的として、

- ① 改正教育基本法及び私学振興助成法の精神を十分に反映した私学振興策の着実なる実施
- ② 公私間の学費格差の是正や公立学校の協調
- ③ 経常費補助（生徒一人当たりの単価）を国の財政措置額並の増額等を行政関係者及び議会関係者に要請

といたします。

当日の招待者（予定）は、神奈川県知事の黒岩祐治様、県議会議長の森 正明様、をはじめ、来賓として国会議員、県会議員をお迎えする予定です。参加者は、加盟校の理事長・校長・教職員及び保護者会から各校10～15名程度をお願いし、約1,000名の大会にしたいと考えております。

今年も多くの皆様のご参加を、よろしくお祈りします。

神奈川県私立中学校・高等学校 振興大会

実施日	平成28年11月9日(水)
会場	パシフィコ横浜 会議センター メインホール ＜交通＞JRまたは市営地下鉄「桜木町駅」より徒歩12分 みなとみらい線「みなとみらい駅」より徒歩3分
時程	・受付 13:50～14:30 ・振興大会 14:30～16:00

平成28年度主な行事への出席

- ◆4月29日(金・祝) 「2016中学相談会」 \*パシフィコ横浜(佐藤会長)
- ◆5月10日(火) 平成28年度5月理事会平成27年度会計監査
- ◆5月12日(木) 薬物乱用防止講演会 \*開港記念会館(吉成理事)
- ◆5月20日(金) 平成28年度定時総会・特別講演会 \*崎陽軒本店
- ◆5月25日(水) かながわ地球環境保全会議総会 \*県庁本庁舎3階大会議室(佐藤会長)
- ◆6月24日(金) 関東地区私学保護連理事会 \*横浜ロイヤルパークホテル(佐藤会長、深沼副会長、事務局)
- ◆7月9日(土) 神奈川県社会環境健全化推進会議 \*横須賀市文化会館(深谷・吉成理事)
- ◆7月18日(月・祝) 「2016全私学(中・高)展」 \*パシフィコ横浜(佐藤会長、深沼・鴨下副会長、深谷・木村理事、前迫・金子監事、市川会計理事、市川顧問)
- ◆7月21日(木) 日本私学保護連総会・研修会 \*名古屋観光ホテル(佐藤会長、深沼・原副会長、事務局)
- ◆7月23日(土) 神奈川県社会環境健全化推進会議 \*川崎フロンパーク(深谷理事)
- ◆7月27日(水) 事務長会夏季研修会 \*熱海後楽園ホテル(佐藤会長、深沼・鴨下副会長)
- ◆7月30日(土) かながわ青少年社会環境健全化推進会議 \*日産スタジアム(市川会計理事)
- ◆8月16日(火) 理事長・校長研修会 \*箱根湯本富士屋ホテル(佐藤会長、深沼・鴨下副会長)
- ◆8月26日(金) 関東地区私学保護連総会・研修会 \*横浜ロイヤルパークホテル(佐藤会長、他役員12名)
- ◆9月8日(木) 県議会議長への請願 \*県庁新庁舎(佐藤会長、深沼副会長、吉成・深谷・木村理事、前迫監事)

これからの行事予定

- ◆10月20日(木) 保護者会連合会・交流会「研修事業Ⅰ」  
\*箱根岡田美術館と大涌谷見学研修ツアー(佐藤会長、石田代表、約80名)
- ◆11月9日(水) 神奈川県私立中学校・高等学校 振興大会  
\*パシフィコ横浜 会議センター メインホール
- ◆11月29日(火) 私学振興全国大会 \*東京・メルパルクホール
- ◆2月(予定) 保護者会連合会・交流会「研修事業Ⅱ」\*講演会

神奈川県私立中学高等学校案内 ホームページ <http://www.phsk.or.jp> ●内容 学校情報・入試情報・学費補助

■発行者 『神奈川県私学保護者会連合会』 〒221-0833 横浜市神奈川区高島台7番地5 神奈川県私学会館内 ☎045(321)1901  
■印刷所 『有限会社 イソノ』 〒235-0016 横浜市磯子区磯子3-10-4 ☎045(753)2549